

# 敦賀市の防災に関するアンケート報告書

令和6年8月

敦賀市危機管理対策課

# 目次

## I. 調査概要

1. 調査目的	1
2. 標本数の算出方法	1
3. 標本数の算出結果	2
4. 調査対象及び調査方法	3
5. 調査項目	3

## II. 集計結果

1. 個人属性	4
2. 災害対策に関する意識について	6
3. 地震、津波からの避難について	10
4. 地震、津波に対する意識や行動の変化について	31
5. 原子力防災について	33
6. その他、防災に関する意見	35

## III. 課題と今後の対応考察

1. 課題の抽出について	42
2. 今後の対応について	42

## 【参考資料】

アンケート調査票	資-1
----------	-----

# I. 調査概要

## 1. 調査目的

第8次敦賀市総合計画「安心と暮らしやすさ」の政策テーマに基づく取り組みである「安全になる敦賀プロジェクト」を推進するため、令和6年能登半島地震に伴う津波警報発表における災害情報の伝達状況や避難行動、また、日頃の防災に対する市民の意識を調査し今後の防災対策につなげる。

また、今後開催する津波ハザードマップ配布後の説明会の内容に反映させる。

## 2. 標本数の算出方法

必要標本数の算出は以下の理論に基づいて行う。

### (1) 単純無作為抽出法による標本調査の標本誤差 $F$

単純無作為抽出法による標本調査の標本誤差  $F$  は以下の式により表される。

$$|p - P| = 2\sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{(1-P)P}{n}} \equiv F \dots\dots(1)$$

$N$ : 母集団の成員数
$n$ : 標本数
$P$ : 母集団の調査事項に対する調査結果の比率
$p$ : 標本の調査事項に対する調査結果の比率

### (2) 目標の標本誤差 $F$ を与えた場合に必要となる標本数 $n$

上記(1)式をもとにして、抑えるべき目標の標本誤差 ( $F$ ) を与えた場合に必要となる標本数  $n^*$  の理論値を(1)式の逆算により算出する。以下の(2)式で求めた  $n^*$  に(3)式で修正係数を乗じて  $n^{**}$  を計算するという手順により算出する。

$$n^* = \left(\frac{2}{F}\right)^2 (1-P)P \dots\dots(2)$$

$$n^{**} = n^* \times \frac{N}{N+n^*-1} \dots\dots(3)$$

### 3. 標本数の算出結果

標本数の算出条件は以下のとおりとする。

#### (1) 算出条件

$N$ : アンケート対象人口

(敦賀市18歳以上人口 (R6.3.29現在) 【53,799人】)

$P$ : 0.5 ( $P = 50%$  の時に標本誤差が最大となるため)

$F$ : 0.05 (信頼水準95% = 95%の確かさと設定)

#### (2) 算出結果

$$n^* = \left(\frac{2}{F}\right)^2 (1-P)P = \left(\frac{2}{0.05}\right)^2 \times (1-0.5) \times 0.5 = 400$$

$$n^{**} = n^* \times \frac{N}{N+n^*-1} = 400 \times \frac{53,799}{53,799+400-1} = 397$$

よって、回収率100%と仮定した場合に必要な標本数は397部となる。

次項に、上記の必要な標本数に対して、実際の回収率 (70%~10%) を考慮した必要配布数を示す。

回収率別の必要配布部数 (標本誤差5%の場合)

標本算出結果			回収率	必要配布数
$N$	20歳以上人口	53,799	70%	567
$F$	目標とする標本誤差	5%	60%	662
$P$	母集団の調査事項に対する調査結果の比率	0.5	50%	794
$n^*$		400	40%	993
$n^{**}$	回収率100%時の必要標本数	397	30%	1,323
			20%	1,985
			10%	3,970

また、回収率の設定は、敦賀市が過去に実施したアンケート調査の事例を参考とし、30%~40%とした。

これより、今回のアンケートにおける配布部数は1,200部と決定した。

#### 4. 調査対象及び調査方法

##### (1) 調査対象

令和6年3月29日現在の18歳以上80歳未満人口から無作為抽出した1,200名

##### (2) 調査方法

郵送配付、郵送回答またはQRコードによる電子媒体での回答

##### (3) 調査期間

令和6年7月9日（火）～7月26日（金）

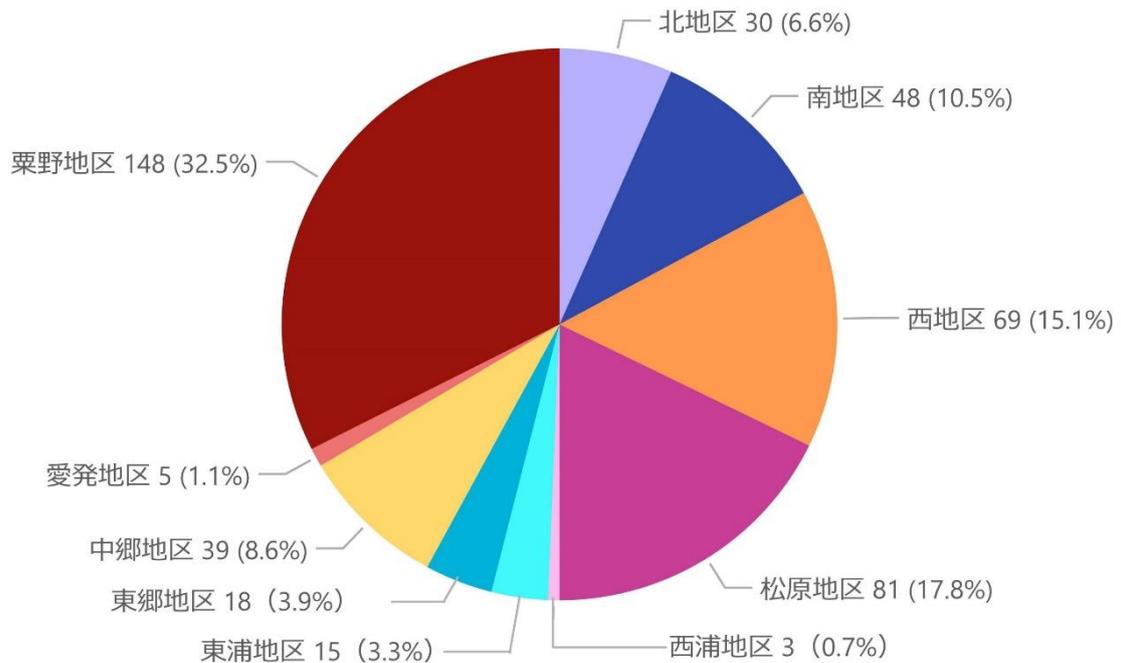
#### 5. 調査項目

- ・一般防災に関すること
- ・1月1日の津波警報に伴う対応のこと
- ・原子力防災に関すること

## II. 集計結果

### 1 属性について

#### (1) お住まいの地区



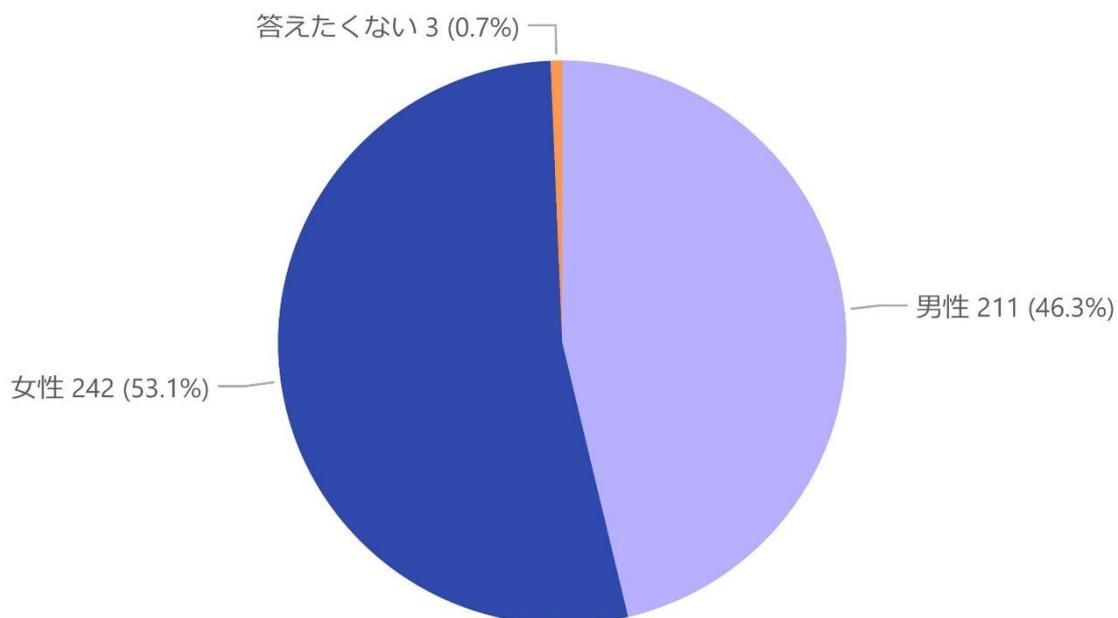
全456件の回答 回答率は38%。

#### 地区別回収率

地区	配布部数 (部)	回答数 (部)	回収率 (%)
北	65	30	46.1%
南	112	48	42.9%
西	144	69	47.9%
松原	229	81	35.8%
西浦	10	3	30.0%
東浦	24	15	62.5%
東郷	41	18	43.9%
中郷	140	39	27.6%
愛発	11	5	45.5%
栗野	424	148	34.9%
総合計	1,200	456	38.0%

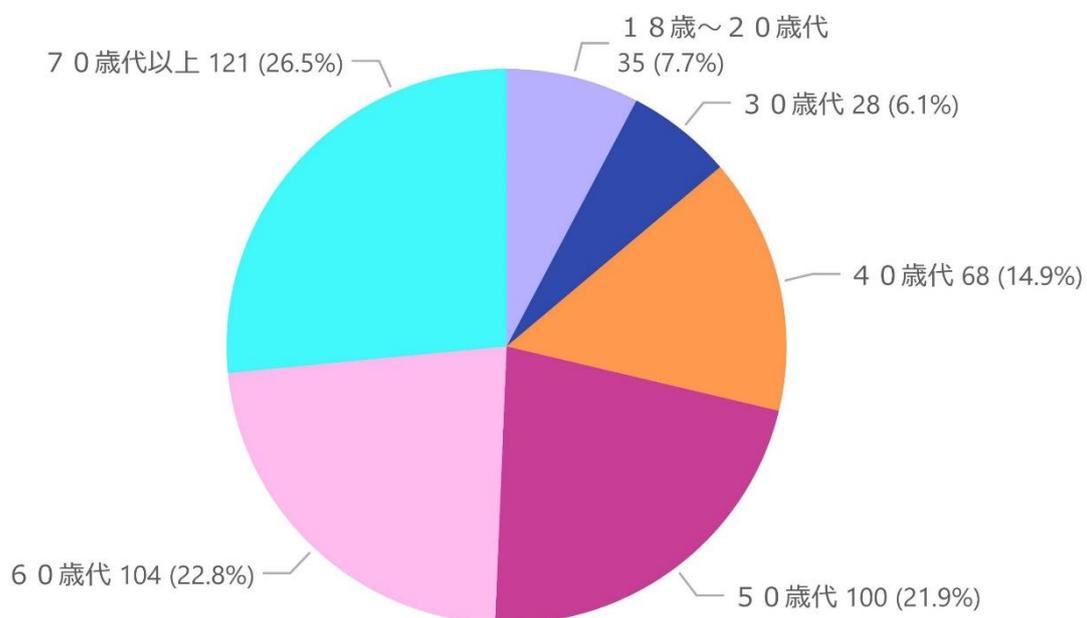
地区別の回答率を見ると、東浦地区の回収率が高くなっているほかは、概ね平均している。

(2) 性別を教えてください。



男性211件、女性242件、答えたくない3件で、女性の方が若干多くなっている。

(3) 年齢を教えてください。



回答者の年代は70歳代以上（26.5%）が最も多く、次いで60歳代（22.8%）と年齢層が高めになっている。

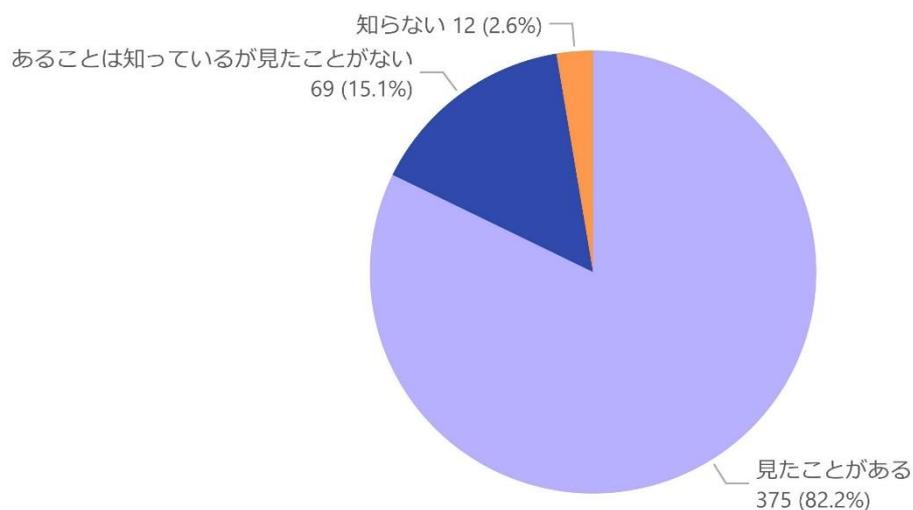
## 年代別回収率

年代	配布部数（部）	回答数（部）	回収率（％）
18歳～20歳代	186	35	18.8％
30歳代	158	28	17.7％
40歳代	194	68	35.1％
50歳代	246	100	40.6％
60歳代	202	104	51.9％
70歳代以上	214	121	56.5％
総合計	1,200	456	38.0％

また、世代が高い方の回答率が高いことから、高齢者の関心が高かったことがうかがえる。

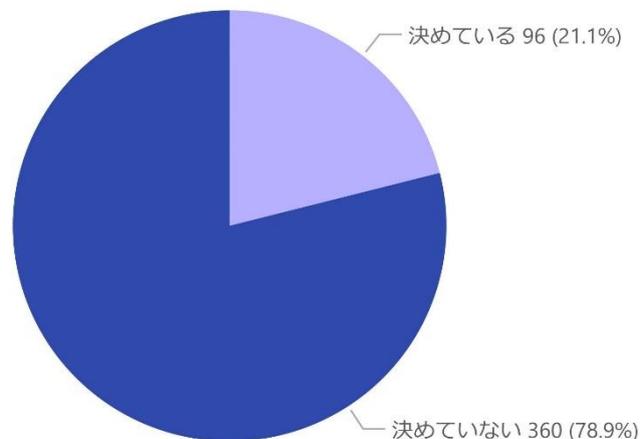
## 2 災害対策に関する意識について

(1) 敦賀市が公開しているハザードマップ（洪水・津波・土砂災害）を見たことがありますか。



「見たことがある」が8割以上となっており、認識が高いことがうかがえる。

(2) 家族や身近な人と、災害が起きた時の安否確認方法について話し合い、取り決めてありますか。



「決めている」が96人（21.0%）、「決めていない」が360人（79.0%）と、8割近くの方が決めていない状況となっている。

(2)–1 【決めている方】 それほどのどのような方法ですか。（複数回答）

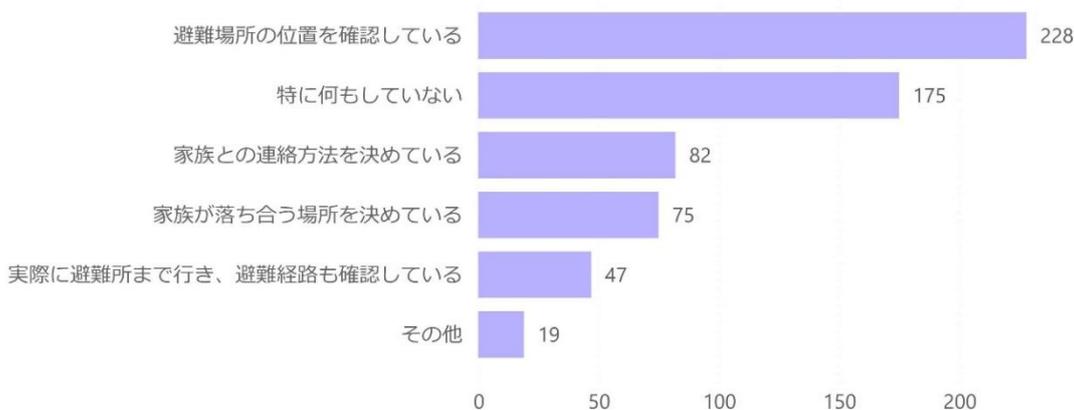


「決めている」と回答いただいた方（96人）の確認方法の内訳は、「災害用伝言ダイヤル（171）」の利用者が1番多く（35人）、次いで「遠くの親戚や知人を中継役と決め、そこに連絡する」（27人）、「勤め先の安否確認システム等を利用する」（22人）と続いている。

その他の方法としては、「集合場所、避難先を決めている」ことや、SNSを利用した確認方法が回答として上がっている。

- その他（・LINE 2件                      ・LINE安否確認
- ・集合場所、避難先を決めている 4件
- ・電話やメールで連絡することになっている
- ・携帯にて連絡 2件    ・待ち合わせ
- ・携帯電話で連絡できない場合はもよりの避難場所に集まる。
- ・ライン等が利用可能な場合はライン（携帯）利用。
- ・地区や区の指示に従う。電話やメールで
- ・家族でその時々のことを（どうすればよいか）話し合っている。
- ・二人暮らしのためお互い携帯電話で確認しあい、繋がらない時は公民館へ行く。遠方に居る子供に現状を話す。
- ・一人暮らしのため警備保障会社が入っている。隣の人とコンタクトしている。
- ・避難所へ集合する                      ・記載なし 2件)

(3) 自宅以外の場所へ避難しなければならない事態に備えてどのような対策をとっていますか。(複数回答)

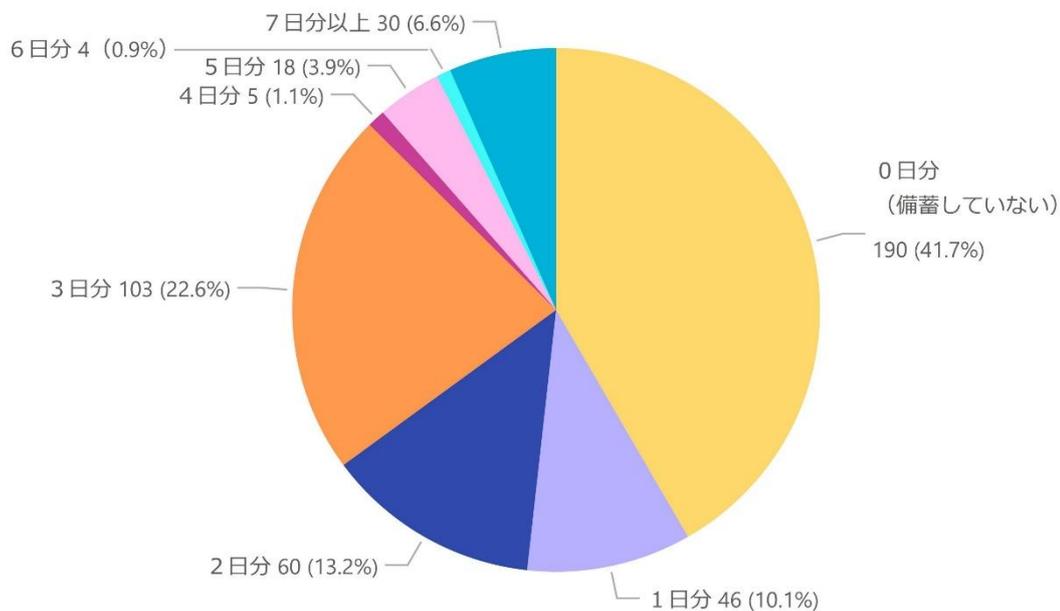


「避難場所の位置確認」をされている方が最も多かった(228人)。一方で、「特に何もしていない」と答えた方(175人)が2番目に多く、事前の備えを行っていない方も多くおられることが確認できた。

○その他の対策

- ・避難グッズを準備している                      ・業務で出勤する
- ・海拔の高いところへ避難する。野坂山方面へ
- ・市立体育館                      ・避難場所が遠いので悩んでいる
- ・家が3階建てで屋上4階部分なので、屋上へ逃げる予定をしている。
- ・災害はどんなかたちで起きるか想定できないから災害情報に基づいて行動する。
- ・日頃、服用している薬を持つ。                      ・無回答 11件

(4) 家庭に災害時の備蓄食料品は何日分ありますか。



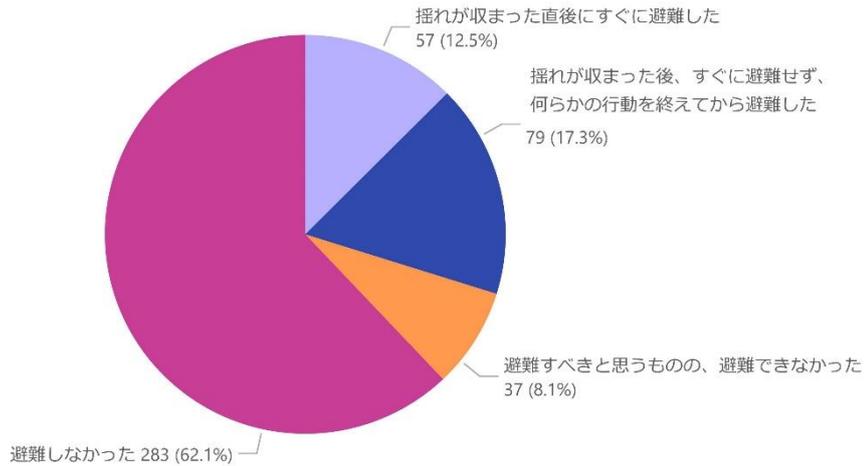
敦賀市では、3～7日分の備蓄を推奨している中で、約35%の方が「3日分以上」の備蓄を行っているものの、「備蓄をしていない」と回答した方も4割おられた。

### 3 地震、津波からの避難について

(1) 令和6年1月1日（月・祝）午後4時10分に石川県能登地方を震源とするマグニチュード7.6の地震が発生しました。

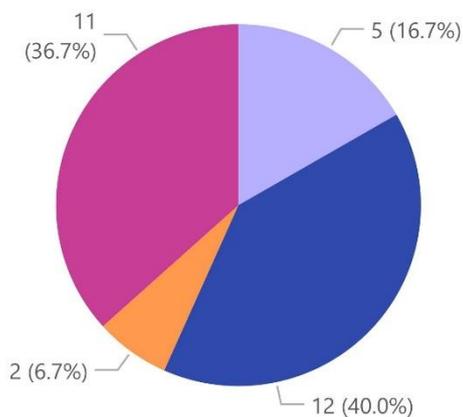
- ・敦賀市では震度4の地震を観測
- ・午後4時12分 福井県内に津波注意報が発表
- ・午後4時22分 福井県内に津波警報が発表

このとき、どのような行動を取りましたか。

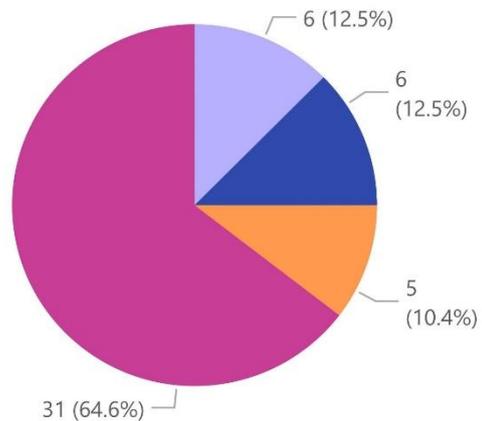


避難行動をとった方は「揺れが収まった直後にすぐに避難した」と「揺れが収まった後、すぐに避難せず、何らかの行動を終えてから避難した」を合わせると3割程度になっている。

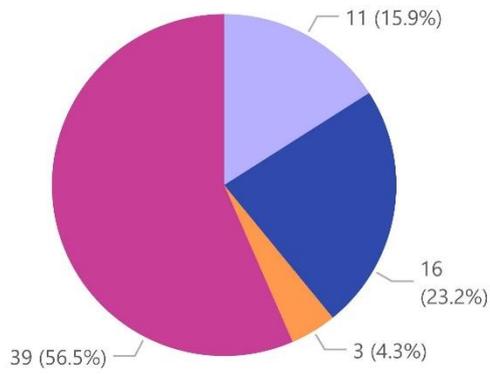
#### 【北地区】



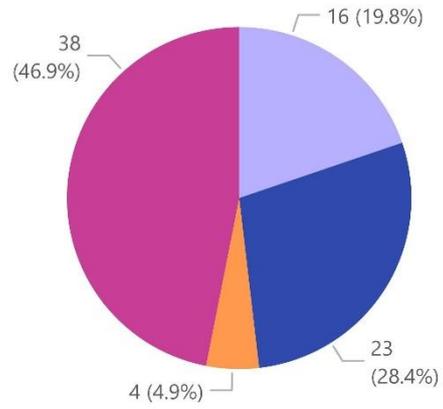
#### 【南地区】



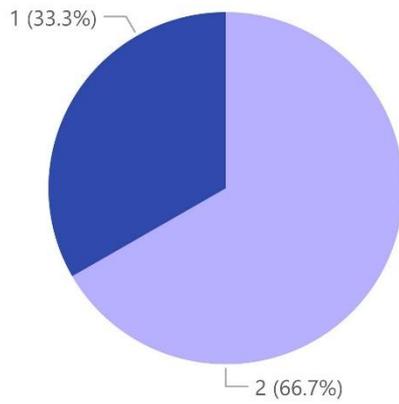
【西地区】



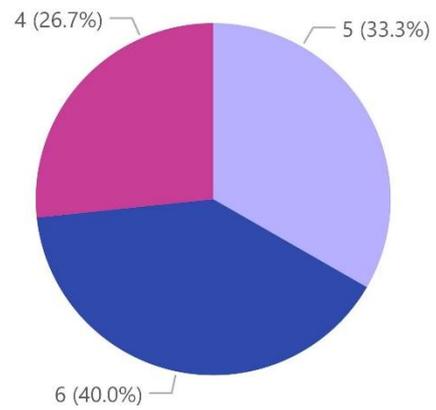
【松原地区】



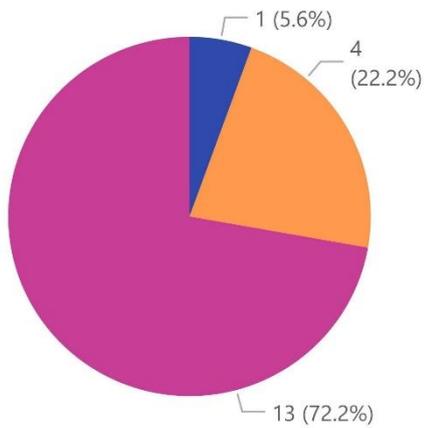
【西浦地区】



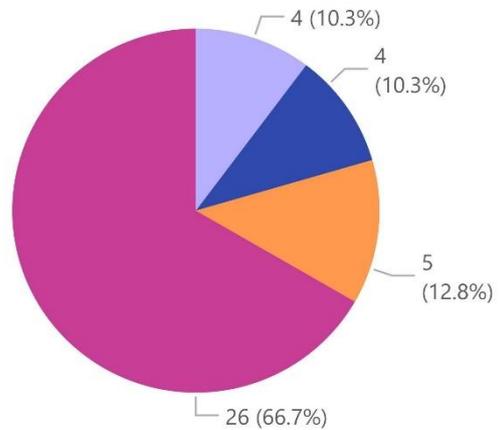
【東浦地区】



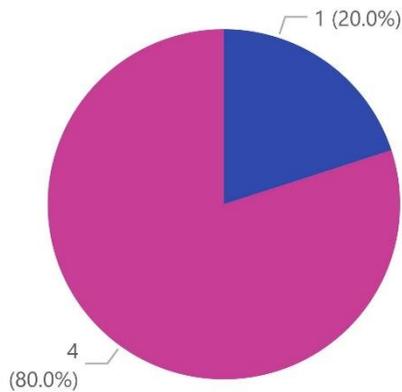
【東郷地区】



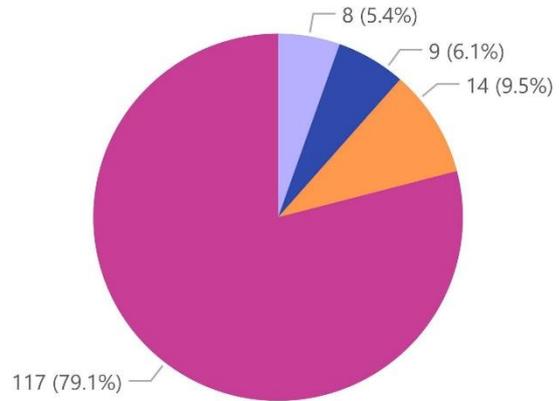
【中郷地区】



【愛発地区】

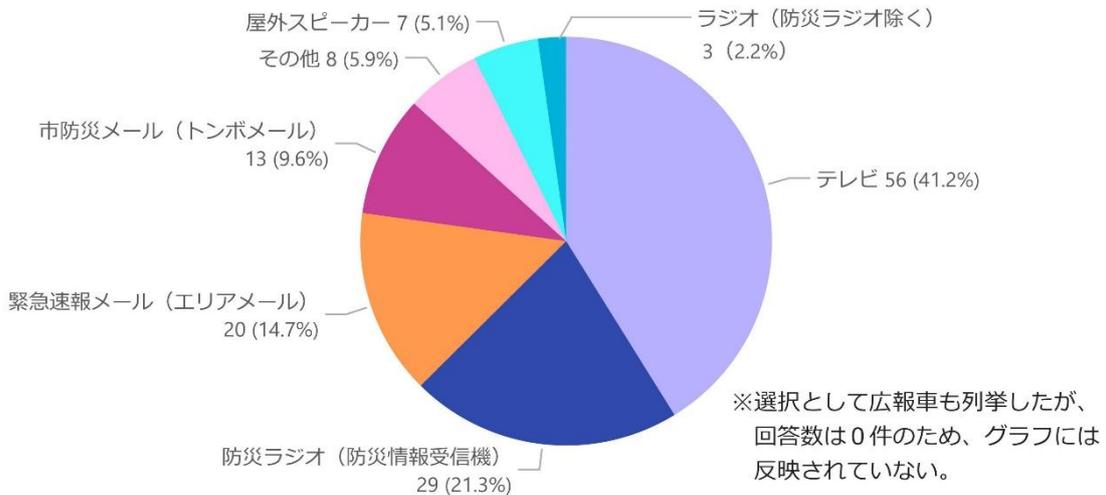


【栗野地区】



地区別の内訳をみると、西浦地区は全員が避難している。東浦地区も3/4程度の方が避難している。市街地地域で海岸線に近い地区（北、西、松原）では、半数程度の方が避難している。

(2) 避難のきっかけとなった情報は何ですか。

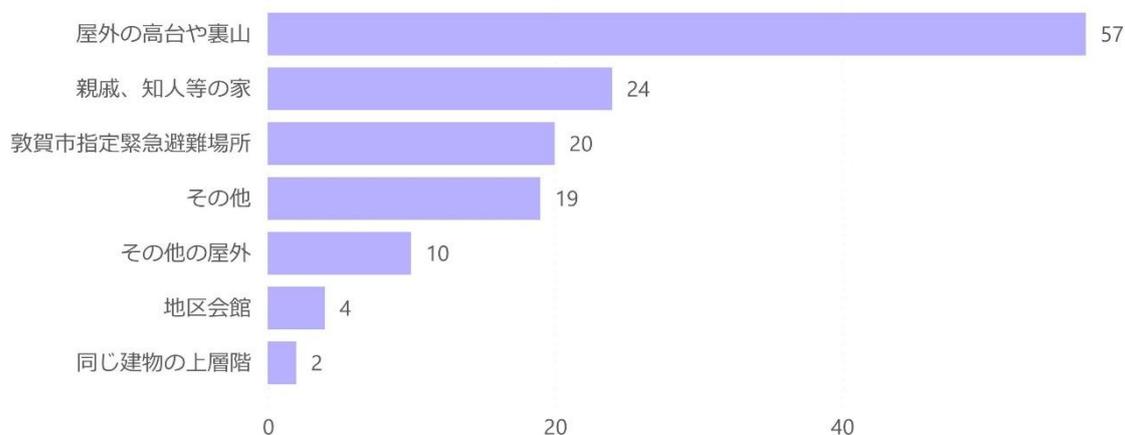


避難行動をとった方（136人）の情報源はテレビが最も多く（56人）、次いで市防災ラジオ（29人）、緊急速報メール（20人）と続いている。

○その他のきっかけ

- ・ SNS
- ・ 会社の指示
- ・ 携帯電話
- ・ 仕事中に職場皆さん避難した。
- ・ 自身のスマートフォン
- ・ 自分の心
- ・ 周りが避難していたので
- ・ 人に促されて

### (3) 津波から避難するため、どこを目指しましたか。



※選択として屋根の上、屋上も列挙したが、回答数は0件のため、グラフには反映されていない。

屋外の高台や裏山を目指した方が一番多く（57人）、次に、親戚、知人等の家へ避難した方（24人）が続いている。

敦賀市指定緊急避難場所を目指した方は、敦賀市立看護大学や敦賀気比高等学校、プラザ萬象や市役所など、高い場所や海岸から離れた場所を目指していた。その他の避難先では、アルプラザやショッピングセンター、若狭湾エネルギー研究センターや敦賀国際ゴルフ場があげられており、海から離れた高台や高い建物を目指して避難したことが確認できた。

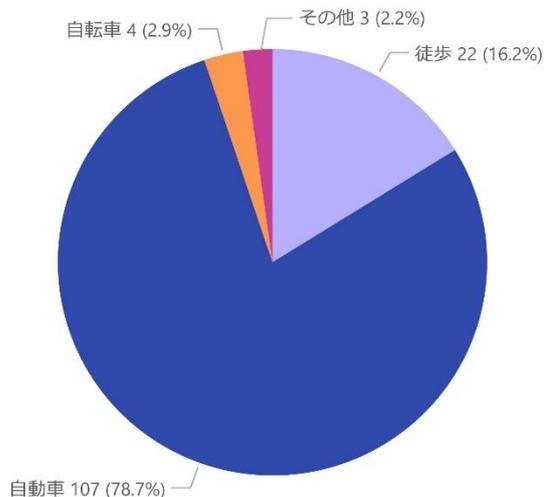
#### ○敦賀市指定緊急避難場所

- ・プラザ萬象 2件
- ・敦賀気比高等学校 2件
- ・東浦小中学校 2件
- ・敦賀市立看護大学 2件
- ・敦賀市総合運動公園 2件
- ・敦賀市役所
- ・アルプラザ
- ・中央小学校
- その他の避難先
- ・リラポート
- ・未記入 6件

#### ○その他避難場所

- ・自身の会社の上層階
- ・オルパーク
- ・県外
- ・敦賀国際ゴルフ場駐車場
- ・海から離れたところ
- ・敦賀気比高等学校
- ・ハザードマップ上津波の被害に遭わない自宅
- ・自宅が野坂で高台なので自宅にいました
- ・福井県若狭湾エネルギー研究センター駐車場 2件
- ・近くの高い建物、ショッピングセンター 6件
- ・帰省先の避難所
- ・泉ヶ丘病院
- ・記載なし

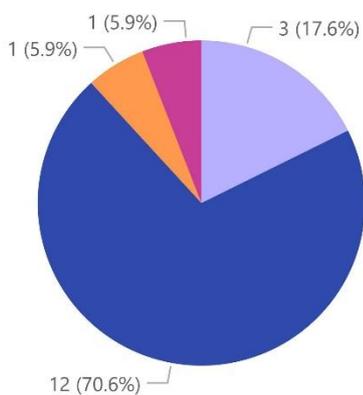
(4) 避難場所までの移動手段を教えてください。



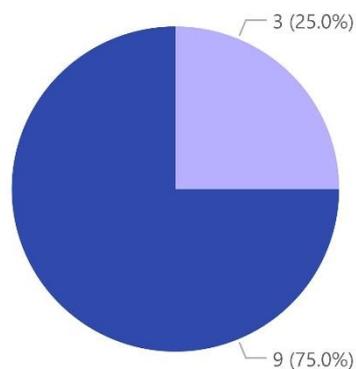
※選択としてバイクも列挙したが、回答数は0件のため、グラフには反映されていない。

自動車による避難が一番多く（107人）、次いで徒歩での避難（22人）の方となっている。

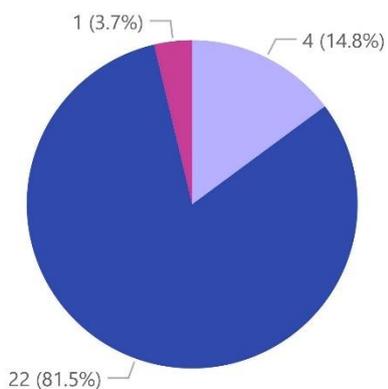
【北地区】



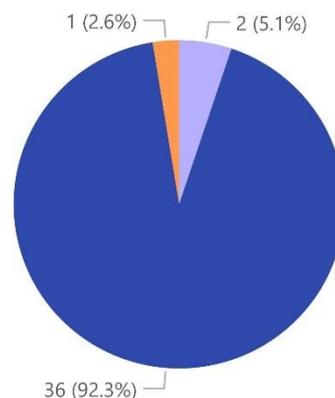
【南地区】



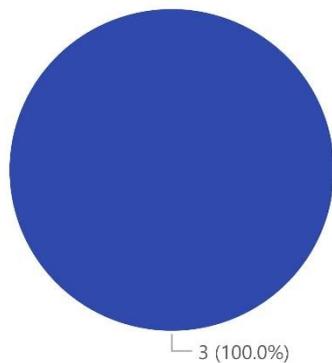
【西地区】



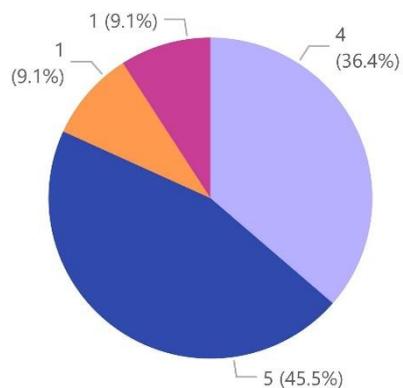
【松原地区】



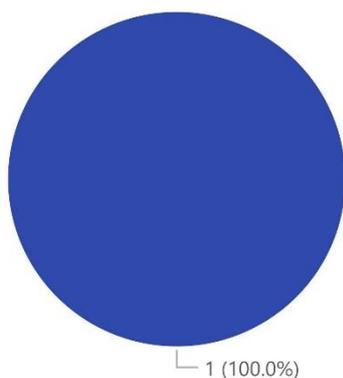
【西浦地区】



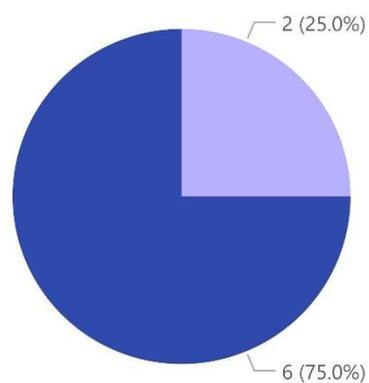
【東浦地区】



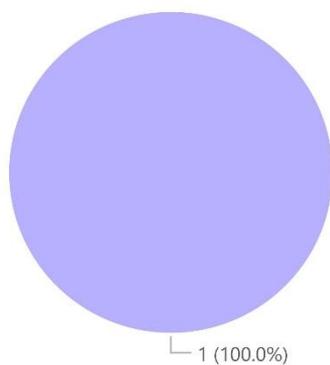
【東郷地区】



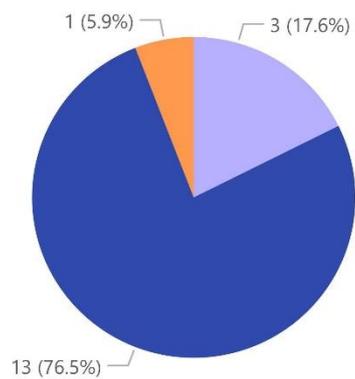
【中郷地区】



【中郷地区】



【栗野地区】

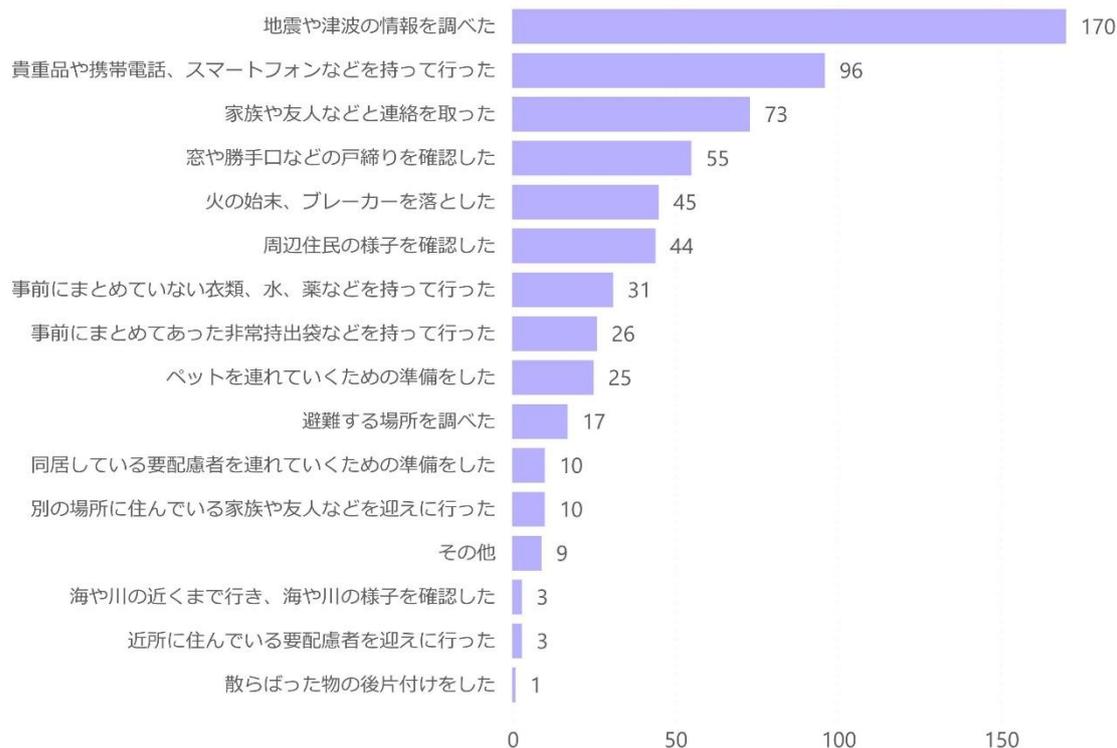


愛発地区を除き、どの地区においても、避難の手段は自動車が多い。

### ○その他の移動手段

- ・ 1月1日の場合は子供がいたので娘の自動車で避難する
- ・ 自動車でドライブ中だった。その時は高所の道路上だった
- ・ 徒歩と自動車

### (5) 地震が発生してから避難場所へ向かう前に、何をされましたか。(複数回答)



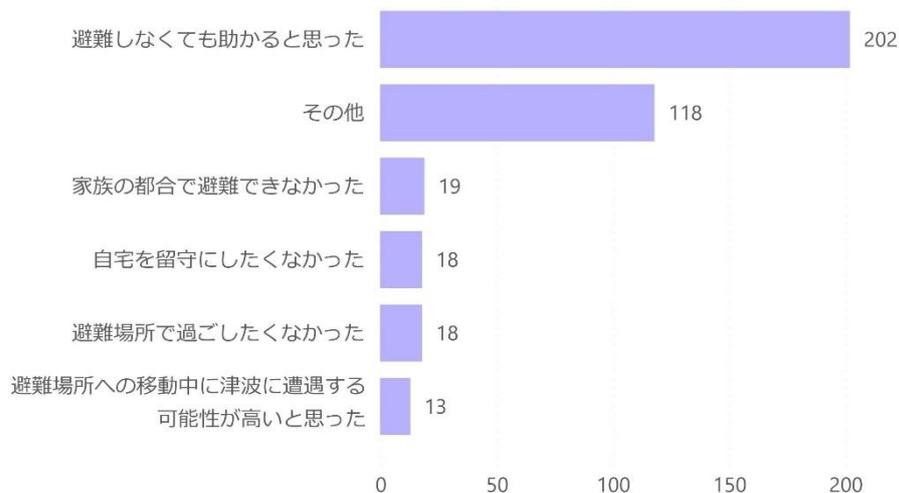
避難の前に「地震や津波の情報収集を調べた」が最も多く(170人)、次いで、「貴重品や携帯電話、スマートフォンなどを持って行った」(96人)、「家族や友人などと連絡を取った」(73人)が続いている。

また、自宅を離れるため、「戸締りの確認」(55人)や「火の始末、ブレーカーを落とした」(45人)も多くいた。

### ○その他の行動

- ・ 仕事へ行った。家族を避難させるため、避難所が開設しているか調べた。
- ・ 職場の安否確認
- ・ 職場の津波対応をして避難した
- ・ 避難誘導
- ・ 親戚の家にしたためみんなで近くの平和堂に行きました。年寄だけは、自動車で送ってもらいました。
- ・ 未記入

(6)【避難できなかった方・避難しなかった方】  
 主な理由について教えてください。(複数回答)



「避難しなくても助かると思った」方が一番多くいた(202人)。  
 地区別集計



地区別の内訳としては、粟野地区(93人)が一番多く、次いで松原地区(30人)、西地区(18人)と続いている。

その他の理由では、ハザードマップ上で浸水しないエリアだったといった考えた行動や、さほどの揺れではなかったといった感覚で危険度が低いと判断された方や、3階建てで上に避難するといったすぐに避難できる状態であった方、家族で意見が分かれ多数に流された、帰省していた人数が多く、避難の準備ができなかったといった理由の方がいた。また、仕事中や市外、県外にいたという方も見受けられた。

○その他の回答

【危険度が低いと判断】

- ・ハザードマップ上では浸水しないエリアであったため

- ・住んでいる場所が高い場所のため津波の心配はないと思った 6件
- ・津波の地域ではなかった 4件
- ・居住地まで津波は来ないと判断した
- ・自宅が安全だと思ったため。(鉄筋コンクリート・4F)
- ・建物が大丈夫だと思った
- ・該当する災害が地震のみだったので避難しなかった
- ・区内を見て回ったが被害はなかった。その後テレビ中継で情報を得た。
- ・高層階の住宅に居たため避難しない方が安全だと思った。
- ・同居の長男がスマホで情報収集して、必要ないと判断した。
- ・ラジオで聞きました。現在、越前沖で漁をしている漁師さんとの電話で、海は非常に穏やかです、津波が来るとは想像できない、と話していたため。
- ・海拔4mあるので避難しなかった
- ・避難するほどの揺れではなかった 2件
- ・まだ早いと思った。
- ・ネットで情報を確認して、津波は来ないと判断してのこと
- ・テレビで津波情報を常に確認していた。避難の必要性を感じなかった。津波が来るようには思わなかった。
- ・大丈夫だと思った。
- ・海拔を調べて避難しなくて問題ないと思った。
- ・地震発生直後よりテレビとスマホ等で情報収集しながら様子を見ていた。やみくもに高台避難等をするのは混乱の元になると感じたので。ライブカメラで敦賀港の潮位も見ていた。1月の地震に関しては地震の被害よりも津波の有無が重要と思った。
- ・揺れが収まった後、外出中だったので自宅へ戻った。テレビの情報を確認しながら、いつでも避難できるように待機していた。

**【避難所の近く、すぐ避難できる状態】**

- ・近所の高い建築物にすぐに避難できる環境であったため
- ・3階建てで上に避難する
- ・7階建ての3階に居住(外の様子は見ました)、必要なら屋上に行こうと思いました。
- ・マンションの屋上へ逃げる用意をした。
- ・避難所の近くだった。 2件
- ・交通渋滞が予想されたため、いざとなったら自宅の2階へ行こうと思った。
- ・自宅の2階に避難した。近くの敦賀高校が開いているか見に行ったが閉まっていた。
- ・揺れが収まった後に自宅の高いところに移動した

### 【家族の関係】

- ・要介護者が居たため、ニュースを見ながら様子を伺っていた。
- ・親族の誰も避難していなかったから
- ・家族で「避難すべき」と「する必要はない」で意見が分かれ多数に流された
- ・障がい者の息子を連れての避難は難しい。
- ・正月で帰省していた人数が多く、小さい孫のミルク、おむつ等の準備ができていなかった。
- ・多くの親戚が集まっていたため、揺れが収まった後、皆の安否を確認し、家に居ても大丈夫かなと思った。

### 【仕事中、出勤した】

- ・仕事中だったため 9件
- ・出勤になったため
- ・会社から呼び出しがあった
- ・災害出勤
- ・仕事中であった。高齢者対応のため、離れられなかった。
- ・勤務中だったため自宅にいる家族の安否の電話と自身の安全と居場所を連絡した。
- ・消防団活動のため
- ・仕事中だったため（訪問介護）
- ・ショッピングセンター仕事中のため、お客様が怪我をしなかったかなど避難、誘導をしないといけないため
- ・避難所運営のため
- ・店舗什器が濡れないよう高所への移動作業

### 【市外、県外にいた、移動中であった】

- ・市外にいた 13件
- ・県外にいた 20件
- ・敦賀市外の津波の危険性の低い場所にいた 2件
- ・自家用車で移動中でした
- ・バスに乗っていたので揺れを感じなかった
- ・移動中で、帰宅時にどうすれば良いのか、近所の状況も分からなかった
- ・自宅にいなかった 5件
- ・外にいて地震に気が付かずに行った
- ・外にいて揺れがおさまった

### 【その他】

- ・津波が家近辺までくるとは思えなかったし万が一家が津波の被害にあうとしたらほとんどの場所に逃げても大差ないと思った
- ・初動に遅れた。 ・地区、区民優先の為 ・コロナ療養中だった。
- ・津波警報の発表があれば自分が住んでいるところは大丈夫かどうか話すことはあったが、いざ津波警報が出てもどこへ行けばよいのか（高台はどこか？）わかりませんでした。





っぱいになり、動けなくなっていた。実際には他の避難所も「鍵」がかかって入れないところが多かったと聞いた。どの避難場所が開設されているのか等、分かりやすく知らせて欲しい。RCNや防災ラジオを使って情報連絡して欲しい。

- ・自分が住んでいる地域が避難対象かどうかわからなかった。具体的な伝達方法を教えて欲しい。
- ・避難情報等がわかるようにしてほしい。(不安になるので細かな情報発信をお願いします)
- ・地区ごとに避難場所や避難する建物の情報をいち早く市民へ知らせること。

#### 【避難所】

- ・避難場所に行けば大丈夫でも必ず何かもらえるようにする
- ・避難所でも快適に過ごしたい。
- ・避難場所の小部屋確保                      ・受け入れ体制の充実
- ・避難先で、プライバシーが確保出来る事と、最近ではペットも家族として過ごしている家庭が多いので、ペットも受け入れる体制にして欲しい。
- ・避難先で水や食料等、冬は暖房の確保等。避難先で不自由にならない様に事前準備の支援。
- ・プライベートが確保できるスペース
- ・避難場所の衛生管理、生理用品等の備蓄                      ・避難所の備蓄
- ・十分な食料(食べられないものがあるから色々な中から選べる)また、各家庭事に寝起き出来る区切られたスペース
- ・確実な避難箇所の設置、避難先の状況、備蓄類の充実
- ・避難場所を増やす(高い建物はもっとあり、車での移動が主流で渋滞になったり、駐車場が不足するから)
- ・ペットを飼っているので、安心して避難できる場所を確保してほしいです。
- ・避難場所に物資がある。                      ・食料                      ・避難所を快適にする
- ・緊急時には持ち運べるものが限られてくるので備蓄品が避難所にあると助かる。プライバシーの確保は必須。
- ・避難所で少しでも段ボールでの仕切りなどプライバシーに配慮した避難所作りや衛生面にもなるべく配慮できるように避難生活ができると思う。
- ・避難所に非常食の確保があると避難時の荷物が少なくすむと思う。
- ・災害に遭わない避難場所の確保をしてほしい。
- ・避難場所の食料等の確保。特に子ども。
- ・避難したとして、避難先の環境整備                      ・ペット関係

- ・避難する際の混乱を無くし避難先での物資の充実
- ・一人暮らしの人でも安心して避難できる場所があるといい。
- ・避難所での食料配給・簡易的な部屋の仕切りの設置
- ・プライベート空間が保たれる場所 2件
- ・高齢者多数おり、近場での避難場所の確保
- ・指定避難場所に少し不信感がある。 ・敦賀駅を開放する
- ・マンション内にも避難場所と同様に食品・水等を支給していただきたい。
- ・感染症にかかっている人も安心して避難所へ行けるように仕組みを作ってほしい
- ・個別のスペース、乳幼児のミルク、おむつ（大人用も）、薬等の確保
- ・相談に乗ってもらえるところがあると良い。災害が発生した際は直ぐに避難場所として敦賀高校を開けて欲しい。（夜・休日を問わず）

#### 【避難方法】

- ・支援しても時間がかかりすぎて無理。助ける人まで死んでしまう。「津波てんでんこ」で逃げられる人だけ逃げるほうが現実的。性善説は、死者を増やすだけ。
- ・誰かが避難誘導する ・地域を巡回しての避難誘導
- ・渋滞ができたと聞きます。歩行が困難な方や子連れなど、車での避難がやむをえない人が優先されると良いなと思います。
- ・避難時の町内での声掛けの強化 ・お年寄りの安全移動確保
- ・避難所までの経路がわかりやすいように道路標識があるといいと思う。
- ・土砂災害のほうが心配な場所なのですが、避難場所までの交通手段が心配。
- ・普段の生活には不便は特にはないが、体に不自由な所があるので心配です。
- ・母親が自力で歩けないため、車いすにて移動をするため、そこら辺のことを私の家だけではないので考えてほしい
- ・隣近所の方から一緒に避難の声かけ、おきそいがほしい
- ・知的障害のある子供を連れての避難は難しい。避難所にも気を遣って連れていくことができない。（子供が大きな声を出すため）
- ・圧倒的に若い人よりお年寄りが多いので、お年寄りを残して自分だけ避難することは難しいと思います。
- ・身体が不自由なため、自分はゆっくりでも動くことができるが、子供が不自由で動くことができない。
- ・妻の足が悪く歩行が難しい。自分は単身で出張のため、平日は家を空けるため、妻の安否が気になるので近くの方にもお願いをしているが、市や町のほうでも助けていただけたらと思う。
- ・健常者ばかりではないので、弱者も居ることで対応願いたい。



(8) 災害時の避難について、ご意見、ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

避難所、避難生活の充実度を上げる意見（プライバシー保護、在宅避難者への支援、衛生面の対策）、防災啓発（徒歩避難の推奨、災害に対する理解促進）、情報発信（きめ細かな情報発信）に関する意見、道路状況の情報（渋滞）を求める意見、避難行動・方法に関する意見（避難弱者の対応、ペット同行避難）、避難訓練の実施要請などがあがっている。

#### 【避難所、避難生活の充実について】

##### ■避難生活の充実

- ・避難所が安全安心な環境を作って頂きたい
- ・出来るだけ、敦賀に滞在したい。シェルターの拡充をして欲しい。
- ・避難場所へはマスコミを入れない等プライバシーの保護を願いたい
- ・なるべく早く、体育館の避難所から仮設住宅など、元の暮らしに戻れるように対応してもらいたい。
- ・在宅避難をしていても物資等の支援を確実に受けられるようにして欲しい。
- ・避難所の生活をしやすくしてほしい
- ・1月1日の災害の時、栗野公民館に他の地区から避難の人が来られていましたが、公民館は鍵がかかっている、トイレや休憩ができない人が車の中におられました。
- ・トイレ等、衛生面が保てなくなるケースが多いと思うので、その部分を重点的に対策してほしい。市でどの程度の水や食品の備蓄があるのか、それは何世帯、何人分くらいあるのかを公表してほしい。
- ・栗野公民館へ避難したがトイレが使用できなかった。今後は使用できるようにしてほしい。
- ・できる限りプライバシーの配慮をお願いします。
- ・以前、笙の川の水位上昇があった時、自宅（集合住宅3階）よりも避難場所（プラザ萬象）の方が海拔が低いため、避難すべきか迷った。自宅の方が命は助かるかもしれないが、その後のライフラインや支援物資のことを考えれば、避難場所へ行って把握してもらうべきか悩みました。

##### ■避難する場所について

- ・家の近くに避難所はありますが、今回の場合（1月1日）どうなのかと・・・
- ・各家毎に避難場所を教えてください。
- ・何年か前に台風で川が増水したときに市役所から松原小学校へ避難するように指示が出た。増水や津波の際に河口や海に近いところへ行くには

疑問があるため、できれば避難場所を変えて欲しい。

- ・大雨や津波など水災害の場合、指定された避難所では危険なので、もうひとつ避難所を候補として挙げてもらえたら迷わず避難できるのではないかと思う。ただ、近くに高台など垂直避難できる場所がないので車がないと避難できないかも。
- ・素人考えですが、地域ごとに避難場所を決めたらどうでしょうか。そうすれば隣近所も誘いやすいし、安否確認の手間も少しは省けるのでは？
- ・渋滞が発生して避難を諦めた人も周りにいたので地区ごとの避難所までの経路を詳しく決めるといいかも
- ・近くに高いマンションがあります。災害時は屋上の開放をお願いできないでしょうか。
- ・近くの高いビルやマーケットに入れるようにしてほしい。自分の身は自分で守る。

#### ■避難所

- ・避難場所へ行ってもいっぱい、知人は中に入りたくないと駐車場で車の中にいたと言っていました。駐車場もいっぱい、次から次へと入ってくる車、入れない車で混雑していたと言っていました。寒いからエンジンかけてと、そんな話を聞くと避難するのも考えものだと思った。私達は、滋賀県の道の駅を考えている。外トイレはあるし、近くにゲンキーもある。
- ・災害が多様化しており避難場所も変わると考えられる。泉ヶ丘の場合は土砂災害が一番危険で地域の公民館を避難所に指定して欲しい。
- ・大雨の時、川が溢れた時、避難場所に水がつかないか心配。避難場所に食料はあるのか？

#### 【防災啓発、情報発信に関すること】

#### ■防災啓発

- ・災害はいつ起こるかわからないため、避難方法とか備えておきたいものとかを教えて欲しいです。
- ・今回、避難した方もほとんどが車での移動であったと聞いております。車での避難は危険であるという認識を広げていただきたい。
- ・闇雲に行動し、本来避難しなければならない方の邪魔にならないように市民に対して、災害に対する理解促進を徹底する必要がある
- ・いつ起こるかわからない地震対策のために、避難場所が分かるように避難場所が書かれた地図を地区ごとに送ってもらえるとありがたい。
- ・どこにどのようにして避難すればよいかかわからないところがあるので、避難できる場所や方法を伝えてほしいです。
- ・勉強会やチラシなど、たくさん情報があるのですが、いざとなると結局

は近所や家族での助け合いがまず大事だと思うので、実際の体験談などももっともっとお聞きしたいと思います。特に北地区は高齢の人が多いので日頃の交流が大事だと思います。

#### ■情報発信

- ・市の対応が外にいても分かるように出来るといいと思います。
- ・避難所の状況や、まわりの動きが分かると動きやすいです。
- ・避難指示から何分後に避難所が開設されるのか？避難所には何があるのか？
- ・避難後の情報が明らかでなく、自宅へ帰る時間が各自バラバラの状態でもっと早く帰られた感が強い
- ・今、スマホ、ケイタイがあるので防災ラジオはいらないと思う
- ・可能な範囲で直接告知できる方法を模索して実行するべきと思います。
- ・市全体に聞こえるサイレン、放送施設が必要では
- ・屋外スピーカーでの放送を何度もお願いしたい。
- ・情報（避難指示等）を収集するのに機器がなくてもできる方策を考えてほしい
- ・昔の隣組のように隣近所で確認しあうよう、タコ足の連絡票などを作成し、必ず誰かが誰かの連絡をするようにして、全員の確認ができるようにすると良いと思います。
- ・ケーブルテレビと防災ラジオから情報発信する側はもっときめ細かく情報発信するべきと感じた。まず防災ラジオの設置率をアップさせなくてはいけない。笹の川沿いに住んでいる高齢者が数人「地震？避難指示なんて出てた？」「そもそも、ラジオが家にはない」という声を聞いた。市の予算の制約もあると思うが、改めて防災ラジオの設置の有無を見直して対策すべき。
- ・災害の種類によって、どこへ避難したらよいか？避難所が直ぐに開いているのかわからない。
- ・反省点ですが、津波が栗野地区まで来ると思わないので避難しなかった。テレビ（RCN）の緊急速報メール等を通じて強い口調で報道して欲しい。
- ・災害時、いざどうすればよいのか具体的な指示がほしい

#### 【渋滞、避難時の道路に関すること】

#### ■渋滞

- ・親戚宅に自動車で行きましたが同じ方向に行く自動車で渋滞していました。
- ・自家用車で避難を考えているが、道路が渋滞し目的地まで到着できない現象が起きるのではないかと心配である。（栗野地区から原子力センターへ避

難しようと考えている)

- ・三島に住んでいる娘家族は、こちら（新道）に避難しに来た。20:00過ぎまでいました。市内の道路が混雑していた所もあったようだ。
- ・皆、避難するために、車で向かったのですが、27号線関峠方面すごく渋滞していた。
- ・職場から家へ帰る道中道路がすごく混みスムーズに帰れなかった。いざとなったら自動車も無理と感じた。
- ・海の近くに住んでいる知人に、地震の時の事を聞いたら、自動車で避難する人で大渋滞だったとのことだった。かといって歩いて避難するにはかなり大変だと思う。どうすればよいのか？とっさに動けるか心配です。
- ・1月1日は休日だったということもあったが、運動公園の駐車場の開放をもっと早くすれば敦賀気比高等学校に向かう道の渋滞がもう少し緩和されるのではないか。

#### ■道路の案内表示等の要望

- ・避難経路の明確化（1/1の地震時、車での移動困難、道路渋滞で動けず）
- ・自動車避難が多いので居住地ごとに避難道路を指示できないか
- ・避難した人からの話で、すぐに道が混雑したと言っていた。避難経路の充実化や誘導者の設置を速やかに行って欲しい。
- ・野坂山へ避難するために交通渋滞が起きていた。何か具体的な対策や方法を展開していただきたい。
- ・能登半島地震のように道路が寸断されることがあるので、早急に国道8号と国道161号のバイパス道路の建設を希望する。今年完成した櫛林の道路には全く案内表示がないじゃないか。行政は何を考えているのか？標識もセットで造るべき。敦賀IC付近に駐車できるパーキングを作って欲しい。（道の駅的な場所が必要）

#### ■道路状況

- ・自動車の避難では渋滞に巻き込まれるので、道路状況を教えてほしい。
- ・道路状況が判るようにしてほしい
- ・道路がいきている場合、車両での避難は可能か不安、国道にある災害時のゲートはどうなるのか。

#### 【避難行動・方法に関すること】

- ・指定避難場所は自宅より遠く高い場所のため高齢者は無理です。
- ・車いすでの避難について考えてほしい
- ・老人である親戚は逃げませんでした。自力では逃げられない人を把握し、公的に助けてください。避難はしたが、高台は原発の上方 市内も目指せず原発で何かあっても逃げるなどできない。近隣でも、右往左往した

- のにと原発のこわさを感じました。
- ・近くに一人暮らしのお年寄りがいるのがいつも気がかりです。そういう方々をいざというときに誰が誰を手助けするかをあらかじめ決めてほしい。
  - ・家族と離れていると、自分一人では避難しにくい。心配。
  - ・避難するには歩きになりますので、長時間歩くことができないので家にいることになります。ペットもおりますので、人様に迷惑になりますので。
  - ・第三者の方の声掛けが必要かも。頑固な母は家族の言うことは聞かないので。
  - ・近所に高年齢の方がいます。どのように避難するのですか。
  - ・住居（マンション）が大規模な被害を受けない限り避難は考えていない。避難が必要になった場合は妻の実家（神戸市）へ避難する予定。
  - ・一時避難所へ行けば食料も水などを直ぐに受け取れるのか？子供がいるため、自宅にいて様子を見てからの移動（避難）になりそうです。西地区（プラザ萬象）、災害用伝言ダイヤルを実際に使ったことがないので、使い方等分かりやすく知りたい。（Web171は知らなかった）
  - ・昨年、地域のハザードマップを作成した。住んでいるところが赤色になっているが、どうすることもできない。
  - ・避難に自動車を使うと渋滞になることはわかっているけど足が悪いと歩いたの避難は無理があり、どうしたらよいかと考えてしまいます。
  - ・地震直後に津波が想定される場合、徒歩で避難できる高台や建物がない。敦賀病院が近くだが、避難させてくれるか疑問。東北のような津波が来たら敦賀は全滅すると思う。
  - ・老体で外での行動が無理で家族と共に覚悟する。ただし、火災・倒壊による避難は今後検討しなければと思う

#### 【ペットに関すること】

- ・ペットがいる家庭は、自動車でないといけないのでしょうか？どのような対策になっているのでしょうか？
- ・やはり、ペットがいるので簡単に避難することは難しい
- ・以前、大雨と地震等で避難したが、ペットのことで悩んだ。避難先に行ってもペットは建物内へ入れないと思い自動車での避難を考えた。実際は動物よりも人を優先するものと思うので、今後の行動に悩んでいる。

#### 【避難訓練の実施について】

- ・訓練をしてほしい
- ・少なくとも、敦賀市配布の2023防災ハンドブックによる日頃からのシミュレーションはしておきたい。

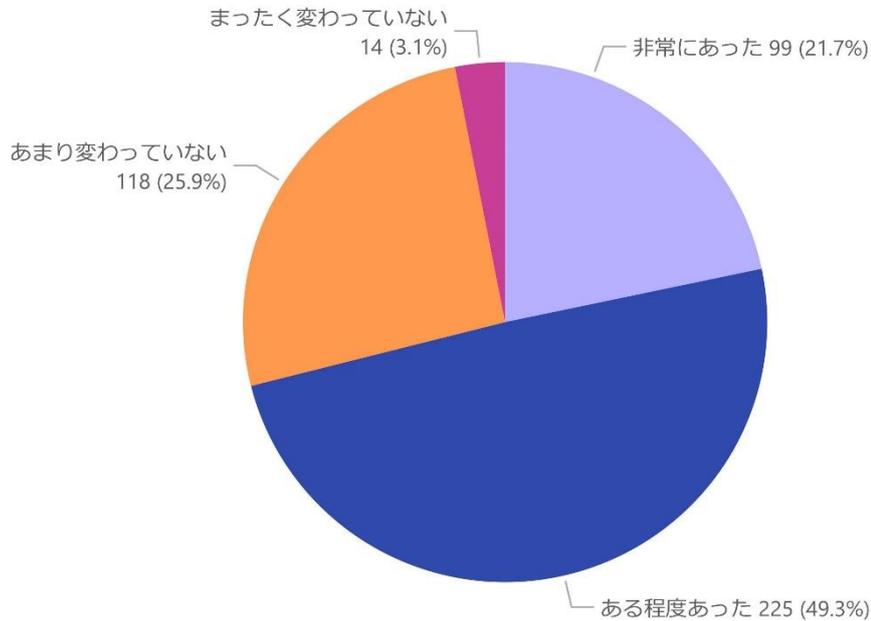
- ・身体の不自由な者の避難の手段や説明等公民館で災害訓練や市での登録等あればとても助かります。

#### 【その他】

- ・実際、災害があった際の補助や補償などを明確にする（補償が分からないと今後の生活が心配で避難はできない）
- ・自前で備蓄した食料や備品はどうしたら良いのか迷う
- ・避難しても無理。自然には勝てない
- ・今回のアンケートに危機管理の甘さがつくづく思い知らされた。2011年の事を思い出された。ありがとうございます。
- ・簡易トイレの充実化、冬季対策の強化
- ・今までの自然災害で土砂崩れ等で埋まってしまった河川の修理がなされておらず、大雨のたびに川が溢れたり崩れたりしないか不安になります。木々や草も伸びたまま個人での努力だけでは限界です。
- ・災害時、消防は余裕がなくなることは目に見えているため、自衛隊への要請を早めることが大切だと思う。
- ・なぜか自分の事とまだ考えられない。爺さんと婆さんの安否が気になった。
- ・市内に別居の家族が市外へ出ていて、留守番の子どもが駅前図書館にいたため迎えに行った。
- ・能登半島地震の地震規模から推測した場合の敦賀における津波の影響の予測はできますか？
- ・一般災害と原子力災害が加わった複合災害が発生した場合の避難行動の実効性が担保されているのか？

#### 4 地震、津波に対する意識や行動の変化について

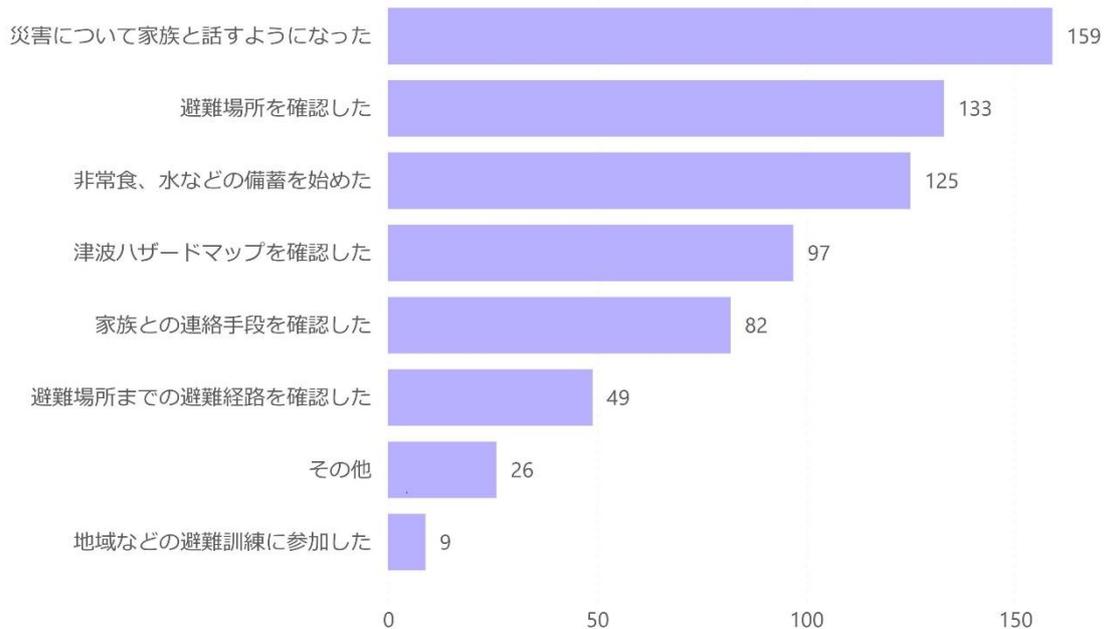
(1) 地震発生、津波警報発表の前後で地震や津波に対する意識や行動の変化はありましたか。



意識変化のあった方が「非常にあった」「ある程度あった」を合わせて7割おられた。

(2) 【非常にあった方・ある程度あった方】

具体的にどのような変化がありましたか。(複数回答)



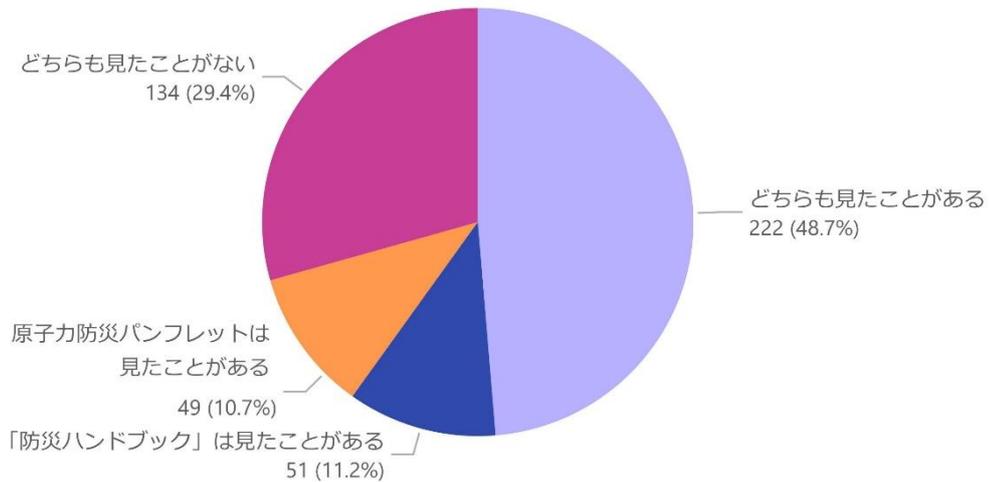
「家族間で災害について話すようになった」が1番多く(159人)、次いで「避難場所の確認」(133人)や「非常食、水などの備蓄を始めた」(125人)が続いている。

○その他の行動

- ・体験したことの無い揺れでとても怖い思いをし、地震に関する情報収集をした
- ・今回は一人でなかったからよかったが、一人の時はと思うと不安です。非常袋を再点検しています。
- ・営業中断の判断を早くする、従業員にすぐ帰宅してもらう決断を迅速に行う必要があると痛感した
- ・この地域に津波が来る等考えてもみななかったが、公的にも危険については周知してほしい。
- ・緊急時に持ち出す物を決めて集約しておくの良いので実行しようと思っている。
- ・訓練のようにはいかないのが災害であるので、道路網を整備して欲しい。
- ・他人が行っている防災に関するいろいろな情報を集めて、自分もできるものから真似ようと思った。
- ・妹が大比田に住んでいるので、避難したかどうか確認した。
- ・海に近い所に住んでいる友人知人に、うちに来るように伝えた
- ・県外にいた                      ・地震保険に入った      ・ペット関係の準備
- ・防災バックの購入を検討中      ・非常用トイレセットを購入した
- ・車で車中泊できるようにした      ・避難用荷物の中身を見直した
- ・特になし                      ・何もしていない      ・記載なし      8件

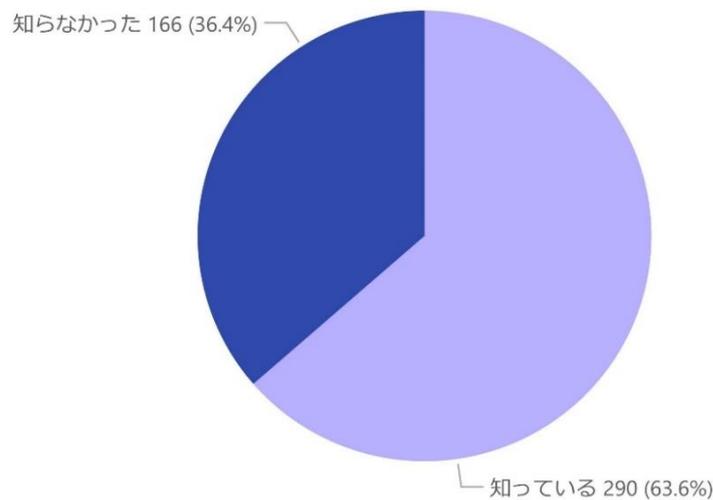
## 5 原子力防災について

(1) 敦賀市が発行している「防災ハンドブック」と「原子力防災パンフレット」を見たことがありますか。



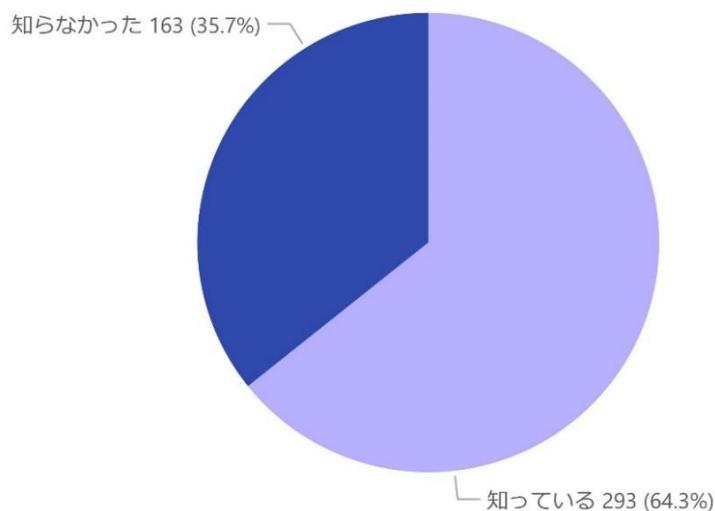
約半数の方は「どちらも見たことがある」(222人、48.7%)と回答。また、「どちらかを知っている」と回答した方も2割いる一方で、「どちらも見たことがない」と回答した方が3割近くいた。

(2) 原子力災害時の対応で、「屋内退避」について知っていますか。



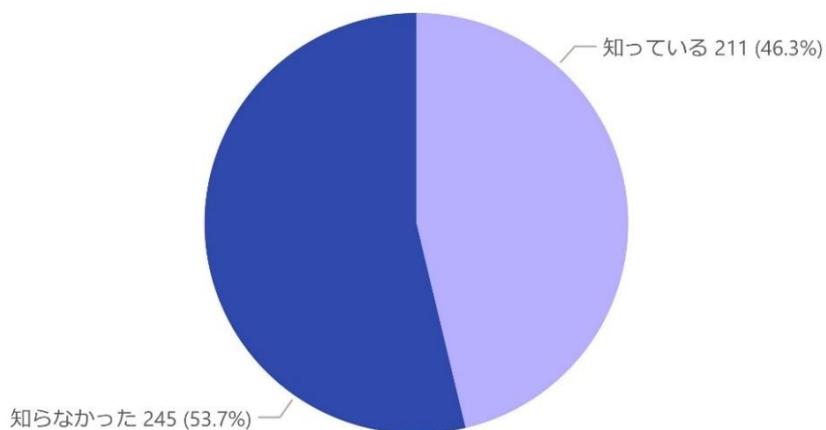
6割の方は屋内退避について「知っている」と回答している。

(3) 原子力災害時の対応で、「広域避難」について知っていますか。



6割の方は広域避難について「知っている」と回答している。

(4) 「広域避難」をするとき、お住まいの地域が県内、県外のどこに避難するか知っていますか。



原子力災害時の広域避難を行うことについて知っていても、実際の避難先までを把握している方は半数を割っている（211人、46.3%）。

## 6 その他、防災に関してご意見がありましたらご記入ください。

原子力災害時の対応についての意見（広域避難先視察研修）、防災グッズの配布（マグネットのチェックリストシートを配付）の提案、迅速・的確な情報発信の要請、防災啓発講座開催の要請、要支援者からの心境（いざというときに動けないのではないか）、日頃の心構え（自分を見失わない・慌てない、防災資機材・食料の準備）のほか、市への要望としてハザードマップをわかりやすく表示できるアプリの導入や避難所環境の改善などの意見が寄せられた。

### 【原子力災害時の対応】

- ・原発事故が起きた後、国や電力会社が私達の元の生活にどこまで近づけてくれるのか具体的に教えてほしい。
- ・原子力発電所は運転しないでください。福島のことを忘れたのか。自然災害はどうしようもないが、人災だけは避けることができる。今日の異常気象は人間が作ったのかもしれない。ひとり、ひとりの命は大切に大事にしてもらいたい。
- ・原子力災害は歴史的に見てもスリーマイル、チェルノブイリ、福島といったように大きな惨事となっており原発が多数立地する嶺南にとっては他人ごとではない。ヨウ素剤すら配布されていない環境において、万が一事故が発生した場合の具体的対応策や避難誘導等を日常的に示す必要があるのではないか。
- ・地震のたびに「原発はどうか？」とドキドキしています。市民の安全のために原発依存はやめてください。核のゴミであふれた日本です。乾式貯蔵の怖さを知り、政府や電力会社の考え直しを求めます。人智をこえています。
- ・自然には勝てない。福島原発は事故じゃない。天災だ。
- ・仕事中に地震→津波→原子力災害まで走ってきたら避難できるとは思えない。原子力災害だけなら避難できると思う。自然災害以外で原子力災害は起きないと思われ、地震+津波+原子力災害時の避難の方法があればいいのですが。
- ・原子力災害が実際に起きたときは、市民が皆パニックになっており、本当に避難できるか不安
- ・奈良県なんて国道161号は土日激混みなのに、その点について市は何も考えてないのか？非現実的ですよ。高島市長浜市の避難する人も殺到するでしょう。
- ・もし本当に原子力災害があった場合、多分皆さん自動車で一斉に移動すると思われま。渋滞になると思われるので、そこら辺はどのように考えて

いるのでしょうか？

- ・ 広域避難する時に高速や鉄道は使えるのか？広域避難の時の集合場所とかあるのか？
- ・ まず原子力災害が起きないようにすることが大事です
- ・ 原子力に何か災害が起きたら、もう助からないと思っている。県外に避難しても、もう敦賀に帰られず生きるのも難しいと思う。差別などもあると思う。
- ・ 昔(10年くらい前)いきいき生涯大学の研修旅行で奈良方面(広域避難先)へ行った。今まで大きな災害に遭っていないため、あまりピンとこないですが、地区で簡単な訓練をしてとてもよかったので、年に一度小さい地区単位で実際に訓練すると意識が高まると思った。
- ・ 原子力災害時は今庄方面と滋賀県方面の出入口を封鎖して敦賀の住民を孤立させると聞いていたので避難先があることで少し安心しました。
- ・ 広域避難のやり方が分からないです。自家用車はダメですか？犬がいるもので。
- ・ 質問：避難退域時検査場所はどこにあるのですか？
- ・ 敦賀は原子力災害の可能性を抱えているので、今年の能登半島地震時のような震度が大きい時は早急に原子力発電所の状況の報告を被害の有無にかかわらず知らせて欲しい。市役所のホームページで早く知らせて欲しい。また、避難場所もSNSで連絡願います。
- ・ 原子力災害が一番怖い。
- ・ 松江市は各家庭に避難先のパンフレットを配布している。そういった取り組みも必要ではないか。
- ・ 災害の程度によって避難先は子供の住所(東海市と伏見区又は岐阜実家)に行く予定。県外の奈良県にはいく予定なし。福井市、小浜市にも予定なし。実家又は子供の住所のほうが近いし便利。(国道等通行可能の場合のみ)
- ・ 円安も災害と考える。エネルギー源が高額で夏の暑さと電気代を考えながらエアコンを使用している。自然エネルギーではなく原発を稼働させることをお願いしたい。

#### 【防災グッズ】

- ・ 防災用資材のスターターパックみたいなものを1世帯に1つ配ればよりよい防災意識が深まると思う。
- ・ 美浜町は世帯ごとに防災リュックを配付しています。敦賀市もそのような支援があると防災への意識の向上や市政への関心も高まると思います。
- ・ 防災リュックや非常食を各家庭に配布して欲しい。

- ・急にやってくる災害（特に今回の地震のような）の際に、とっさにどうすればよいかわからなくなる。ひとり暮らし高齢者などは特にそう感じるであろう。避難所や確認すべきことのチェックリスト（かんたんなもの）が書いてあるシート（シール、マグネット？で家の中に貼れる）があると高齢者にとって常日頃目にすることができて、防災意識の向上につながるのではと思います。（災害が起きても「あれを見れば！」となる）

#### 【積極的な情報発信】

- ・迅速で正確な情報を発信して欲しい
- ・家族間の連絡内容の確認ができていないことを改めて感じました。（たえず）防災の情報を時々流してほしい
- ・避難の必要性は十分分かっているつもりだが、自己判断してしまうので繰り返し情報提供していただきたい
- ・1月1日の地震で、避難した人としなかった人の意識の差が、感じられた。本当に避難をしなければならぬ時、屋外スピーカー等の情報では、緊急性が感じられず、海の近くの地域だけでもアナウンスしながら車を走らせて知らせてもいいのでは？と思います。
- ・積極的に情報発信や、告知、周知等を行ってください。
- ・再々度の周知（連絡）の徹底を願う
- ・的確な早い情報を知らせることが何よりも人命につながるのではないか。

#### 【防災啓発講座の開催要請】

- ・災害はいつ起こるかわからないので、避難場所や災害が起こったとかの対処方法とかを教えてください。
- ・あまりにも知らなさすぎたなあと反省しました。このアンケートをいただいたのをきっかけに、防災、避難訓練等に参加したいです。
- ・これまでに発生した災害の教訓を生かした防災対策をお願いしたい
- ・いつ起きるかわからない災害にもっと知識を深めたい。
- ・子供から大人まで幅広く参加できる防災教室を開いてほしい。防災を生活の一部として考えて防災に関する発信をしている方を招いての防災セミナーなどを開いてくれると参加者は多く集まると思います。防災士の資格を持つインフルエンサーなど。
- ・自分も含めて災害があった時にどう行動したらいいのか、普段からどのようなことをすればよいか分からないので、小冊子やRCNで伝えてほしいと思います。
- ・子供が嶺北に通学している場合は、どうなるのか？いろいろなパターンの避難方法も示してほしい。

### 【生活弱者の声】

- ・私は聴覚障害があります。災害時はスマートフォンのみでのアラートしか知る術がなく、避難の初動が遅れてしまいます。災害対策基本法第60条第1項にて、災害時の必要と認める際に避難する指示を受ける権利が定められています。しかしながら、知る術の選択肢がほぼなく、不十分かつ脆弱であると感じています。またこのことは障害者差別解消法7条にも抵触していませんか？原子力災害についても同様に感じます。
- ・体の不自由な家族がいるが、一人で暮らしているため、いざというときは実際にわからず過ごしている。足の不自由な者等の避難の仕方があればしりたい。
- ・支援が必要な人の漏れが無いようなシステムを確立してほしい。
- ・避難するのは、やっぱり自動車となるので渋滞が心配。高齢の母もいるので、どうしても避難が遅くなる。
- ・いざとなると、とっさに持ち物を持って避難するのは冷静になってできるのだろうかと思う。道路は混むし、年齢が高くなると走れないし、じっとしているだけになるかもしれない。
- ・今回の地震で、ご近所との関わり合いが非常に希薄であるということを再認識しました。身近な地区での防災意識を高める働きかけが、さらに必要ではないでしょうか。
- ・まさかこの地区がという思いにより危機感が薄く、また高齢者や独居の人々と共に安全確認や確保の認識が必要かと感じた。

### 【防災ラジオ関係】

- ・市から貸与されている防災ラジオの設置方法が時々RCNから放送されます。参考になります。マクドナルド前のハーバーステーションは入り口が分かりません。案内が不親切です。駐車場もありませんね。その旨も周知していただきたい。
- ・市役所から配布されている防災ラジオの音量が大きくびっくりする。心臓に悪い。
- ・ラジオの声、訓練でない時は身の危険を感じる声でお願いしたい。

### 【水害】

- ・笹の川の氾濫に対してのケアに力を入れてほしい。対策しているのが分からず、不安である。付近に病院があるため、対策を行うべきだ。
- ・笹の川の河川改修が早急に必要と感じます。
- ・市役所の立地が元々、災害に弱い場所なのが気にはなります。熊本の時のように、何かあったときに庁舎が使えないというようなことが無いようにしていただきたいです。水害時に立体駐車場を持っているスーパー等

- の会社に自動車での避難が出来るようにしていただけると良いと思います。
- ・地区の指定避難所は東郷公民館と旧咸新小学校ですが、大雨の時木の芽川を通過して山側へ避難するのが安全なのかどうか話しているのを聞いたことがある。避難のことを考えたときに心配になります。
  - ・私どもの家は津波の災害は無いと思っています。ただ、世界の異常気象を考えたとき、津波と豪雨のことを考えたとき、三河のことを考えるべき。木の芽川、黒河川、井の口川。敦賀平野はこの三河でできたのですから、気を許してはいけないと思います。海からくる。後から山津波（土石流）が防げる対応をお願いします。
  - ・年に1度、町内の側溝清掃を行っているが、側溝の蓋が重かったり、外れなかったりしてできない箇所がある。大雨で雨水が流れず溢水する恐れがある。行政で清掃を行ってもらえないか。

#### 【心構え】

- ・防災アンケートに回答することによって、防災意識が少し高まった。
- ・災害との遭遇はケースバイケースであり、又自身の状況変化も勘案しながら対応できればと想います。
- ・日頃の心構えなど考えることが多々ありました。
- ・今はまだ何も準備していないのですが、災害に備えての準備を少しずつ始めていこうと思います。
- ・敦賀市は大きな災害があまりないので、自分事で考えていないことが多いと思います。アンケートで初めて知ることもあるので、そんな市民でも取り組みやすい対策や町の整備を求めます。
- ・毎日、地震のことを考えておびえています。能登の人達のニュースをみて、明日は我が身と、ただ落ち込んでいます。
- ・自分を見失わないことが一番大事だと思う。日本はいつでもどこでも災害が発生するかわからないので今以上に注意していきたい。高齢なので慌てないようにします。
- ・若い人との同居生活ですが、まだまだ防災について話し合うことが少ないので、このアンケートを機に防災を意識したいと思います。
- ・災害が起きてから気が付いても遅く、常日頃から注意しておこうと思います。
- ・東浦だと日中はほとんどの家族（親子共々）が市街に出ています。70代の両親や地域の人々（高齢者）が取り残されることが予想されます。そのため、逃げ道として、8号線の増線や複線化が本当に必要だと考えさせられた。1月1日の地震の時は子供たちが直ぐに机の下にもぐっていました。

た。日々の幼稚園や学校の訓練は子供たちに身につけていると考えました。色々と考えさせられる災害ばかりだなあと感じます。我が家の家訓は、「いつでもどこでも災害は起きる」です。

- ・災害に遭われた方が、「救助道具がなかった」との話を聞いて、我が家は家の外にバールなどを取り出しやすいところに置いている。また、食品以外のタオルやラップなど必要なものを外に箱など設置すると良い。私は常に就寝する時は必ず小さい手提げに水300CCと充電式の小さいライトと携帯を充電して就寝します。

#### 【敦賀市への要望】

- ・避難路の整備、運用を明確にして欲しい
- ・異常気象時の学校の休校判断を早めに決断してほしい。異常時には通勤禁止などを自治体から発信してほしい。
- ・市町が災害時にどれくらい被災者に支援が出来るかの見える化
- ・最近、天筒山に登山される方が増えています。熊も出るようになり、そろそろ登山路に外灯を設置していただきたいです。事故があつてからでは遅いです。
- ・五幡に住んでいますが、何かあつたら8号線が混むので山のほうに逃げるしかありません。バイパスを早く通してください。
- ・曾々木区防災倉庫があるが、今まで防災ステッカーを貼つてあつたが、なくなり新しく作つてほしい
- ・避難先を増やす、選択できる、下見する
- ・ハザードマップを見ても自宅が浸水何メートルの危険があるのかわかりにくい。広域を1枚のマップに表しているため仕方がないのかもしれない。地図アプリのように、見たいところを拡大できる機能があれば、使いやすく、見やすいと感じた。
- ・車で避難することであらゆる場所で渋滞が予想される。特に、旧8号線（東洋紡第一前）の渋滞がひどい。何らかの対策を要望します。
- ・避難所のニュースや避難した方の話を聞くと、寝られない、プライバシーがない、お風呂の問題等、劣悪な環境というイメージがあります。それらのことから、進んで避難しようとは思えない。避難所の環境が良くなる対策を望みます。
- ・先ずは誰がどのように声掛けしてくるのか分からない。その辺からでない行動がとれない。今後は想定内の危機管理対策ではなく、想定外の危機管理対策をお願いします。
- ・1月1日の地震時は運動公園・看護大学方面への高台避難で車が大渋滞していたと聞いた。引き返すこともできず大変だったと聞いた。これは弱点

- ポイントだと思いますので、改善するように対策願います。
- ・津波や洪水に対処できる安全な避難場所を確保もしくは建設してほしい。

#### 【その他】

- ・市の対策にも限界があることは理解しているが、各地区の避難場所へ出向くまでの距離が長く、もし道中で雨が降ったりしていると水がついて避難ルートを進めないという声もあちこちから聞かれます。こういったアンケートで皆さんの声を聞いて、ただ纏めるだけのパフォーマンスで終わらせず、各自治会等と連携して年間を通じて対策を講じていただければと思う。職員の皆さん、ご自身はお住いの町内の方との交流はありますか？家に帰ったら近所のつながりが全くないというのもあるのでは？仕事とプライベートは全く別物ですが、結局は「人」どうしのつながりですよ。（好き勝手に書いて申し訳ありません）
- ・自分達で判断することが難しい人もたくさんいるので、判断出来るリーダーのような人が地域にたくさん増えると良いと思う。
- ・最初の質問で何地区に住んでいるかを聞いているが、何地区なのかがわかっていない。
- ・ハザードマップでは津波の心配は無いと思っていたが、警報が出たので避難したが、どうすべきか迷った。
- ・地区の連絡網に実際に電話してみる機会があったが、ほとんど連絡がつかなかった。高齢者は知らない（登録のない）番号からの着信はとらないし、今の連絡体制はあまり役に立たない。旧来のやり方を踏襲するだけで安心しては不十分と感じている。
- ・津波警報が出て避難をしようとアクアトムへ行った人がいたが、行ったところ鍵が閉まっていた入れなかったと言っていた。近くの高い建物はアクアトムが最適と思うが入れないのでは意味がない。緊急の場合は避難できるように配慮すべきではないかと思う。
- ・自宅から高台のところまで距離があり、実際に大きな災害が発生したときに逃げ切れるか不安。今回、1月の地震の時は行動時間が早かったため、車で移動するときも道路がすいていたので早く避難できました。
- ・災害が発生した際に実際にどうすればよいかわからない。町内からバスが出るのか？
- ・空からのテロに対する対応はどのようになっているのか心配です。
- ・災害があったとき、道路は大丈夫なのでしょう？バスで避難場所へ行くのでしょうか？

### Ⅲ. 課題と今後の対応について

#### 1. 課題の抽出について

##### (1) 災害対策に関する意識について

ハザードマップを見たことがあるが82.2%である一方、家族や身近な人との安否確認方法を決めていない方が78.9%おられ、また、災害時の備蓄を行っていない方も41.7%おられた。

##### (2) 地震、津波からの避難について

避難のきっかけとなった情報は、行政からの各種伝達手段（防災ラジオ、防災メール、屋外スピーカー、緊急速報メール）の役割が大きい（50.7%）ことが分かった。また、移動手段は主に自動車（78.7%）であることが分かった。

今回のアンケートでは、避難できなかった方が避難できるようにするために求めている支援は、避難に関する情報発信を希望する意見、避難所の環境に関すること、避難方法の提案や、日頃の避難訓練の実施提案など多岐に渡っている。

また、災害時の避難に関する意見や要望では、避難所、避難生活の充実度を上げる意見、防災啓発、情報発信に関する意見、道路状況の情報を求める意見、避難行動・方法に関する意見、避難訓練の実施要請などがあがっている。

##### (3) 原子力防災について

防災ハンドブック、原子力防災パンフレットの一方、もしくは両方を見たことがない方が半数（51.3%）いることがわかった。また、屋内退避を知っている方が63.6%となっている。広域避難を知っている方が64.3%である一方、広域避難先を知らない方が53.7%と半数以上の方が知らない現状がわかった。

##### (4) その他、防災に関する意見の自由記述

原子力災害時の対応についての意見、防災グッズの配布の提案、迅速・的確な情報発信の要請、防災啓発講座開催の要請、要支援者からの心境、日頃の心構えのほか、市への要望としてハザードマップをわかりやすく表示できるアプリの導入や避難所環境の改善などの意見が寄せられている。

#### 2. 今後の対応について

アンケートの結果から、以下の対応を実施していく。

- (1) 情報発信として、迅速、継続的な発信について対応を進めるとともに、様々な情報発信手段を今後も確保していく。

- (2) 避難方法、避難場所の周知として、災害発生時に慌てず行動できるよう、あらかじめ自身が住んでいる地域のハザード確認や避難場所を決めておくこと、原則徒歩避難の周知活動を実施していく。
- (3) 避難行動要支援者への支援として、個別避難計画の啓発、作成を行っていく。
- (4) 避難所の環境・運営方法整備として、緊急時の指定避難所開設方法の仕組みづくりや、各指定避難所への分散備蓄の実施、資機材の整備を進めるとともに、ペット同行避難やプライバシー保護への対応を行っていく。
- (5) 防災に関する啓発活動として、定期的な避難訓練の実施や備蓄、持出品準備の周知活動を実施していく。
- (6) 地域防災力向上を図るため、地区や地域単位で実施している防災訓練について支援を行うとともに、地域防災マップ作成支援事業を継続する。

【参考資料】

## 敦賀市の防災に関するアンケートへのご協力をお願い

- 敦賀市では、「安心と暮らしやすさ」を政策テーマに、「地域と人のつながりを守り持続性のある災害に強いまち敦賀」を実現するため、「安全になる敦賀プロジェクト」を進めています。
- そこで、本年1月の能登半島地震における避難情報の取得方法や避難行動、防災に関する意識や要望を調査し、今後の防災対策の強化につなげていきたいと考えています。
- つきましては、目的・趣旨をご理解のうえ、アンケートにご協力くださいますようよろしくお願いいたします。

敦賀市危機管理対策課

- ・このアンケートは、敦賀市にお住まいで18歳以上の方から、1,200人の方を無作為に抽出し、ご協力をお願いしています。
- ・アンケートの回答は統計的に処理し、目的以外で利用することは一切ありません。
- ・回答方法については、回答票を同封の返信用封筒に入れて送付していただくか、または、QRコードによる電子媒体での回答をお願いします。

回答期限 **7月26日（金）必着**



回答用QRコード

■お問い合わせ先 〒914-8501 福井県敦賀市中央町2丁目1-1  
敦賀市役所 市民生活部 危機管理対策課  
TEL 22-8166 FAX 21-8682 メール kikikanri@ton21.ne.jp

## 敦賀市の防災に関するアンケート

### 1 属性について

#### (1) お住まいの地区

- 北地区       南地区       西地区       松原地区  
 西浦地区    東浦地区    東郷地区    中郷地区  
 愛発地区     栗野地区

#### (2) 性別を教えてください。

- 男             女             答えたくない

#### (3) 年齢を教えてください。

- 18歳～20歳代       30歳代       40歳代  
 50歳代             60歳代       70歳代以上

### 2 災害対策に関する意識について

#### (1) 敦賀市が公開しているハザードマップ（洪水・津波・土砂災害）を見たことがありますか。

- 見たことがある       あることは知っているが見たことがない  
 知らない

#### (2) 家族や身近な人と、災害が起きた時の安否確認方法について話し合い、取り決めていますか。

- 決めている → (2)-1へ       決めていない → (3)へ

#### (2)-1 【決めている方】 それはどのような方法ですか。（当てはまるものをすべて選んでください）

- 災害用伝言ダイヤル（171）で無事を知らせる  
 災害用伝言板サービスで無事を知らせる





(5) 地震が発生してから避難場所へ向かう前に、何をされましたか。

(当てはまるものをすべて選んでください)

- 避難する場所を調べた
- 地震や津波の情報を調べた
- 周辺住民の様子を確認した
- 家族や友人などと連絡を取った
- 海や川の近くまで行き、海や川の様子を確認した
- 事前にまとめてあった非常持出袋などを持って行った
- 事前にまとめていない衣類、水、薬などを持って行った
- 貴重品や携帯電話、スマートフォンなどを持って行った
- 同居している要配慮者を連れていくための準備をした
- ペットを連れていくための準備をした
- 別の場所に住んでいる家族や友人などを迎えに行った
- 近所に住んでいる要配慮者を迎えに行った
- 火の始末、ブレーカーを落とした
- 散らばった物の後片付けをした
- 窓や勝手口などの戸締りを確認した
- その他 ( )

(6) 【避難できなかった方・避難しなかった方】

主な理由について教えてください。(当てはまるものをすべて選んでください)

- 家族の都合で避難できなかった
- 避難しなくても助かると思った
- 避難場所で過ごしたくなかった
- 自宅を留守にしたくなかった
- 避難場所への移動中に津波に遭遇する可能性が高いと思った
- その他 ( )



5 原子力防災について

(1) 敦賀市が発行している「防災ハンドブック」と「原子力防災パンフレット」を見たことがありますか。

- どちらも見たことがある
- 「防災ハンドブック」は見たことがある
- 「原子力防災パンフレット」は見たことがある
- どちらも見たことがない



(2) 原子力災害時の対応で、「屋内退避」について知っていますか。

- 知っている
- 知らなかった

【屋内退避とは】

原子力発電所から放射性物質が漏れ出るおそれがあるとき、建物の中に入り、ドアや窓を閉めて、換気設備を止めるなど、外気を取り込まないようにすることです。

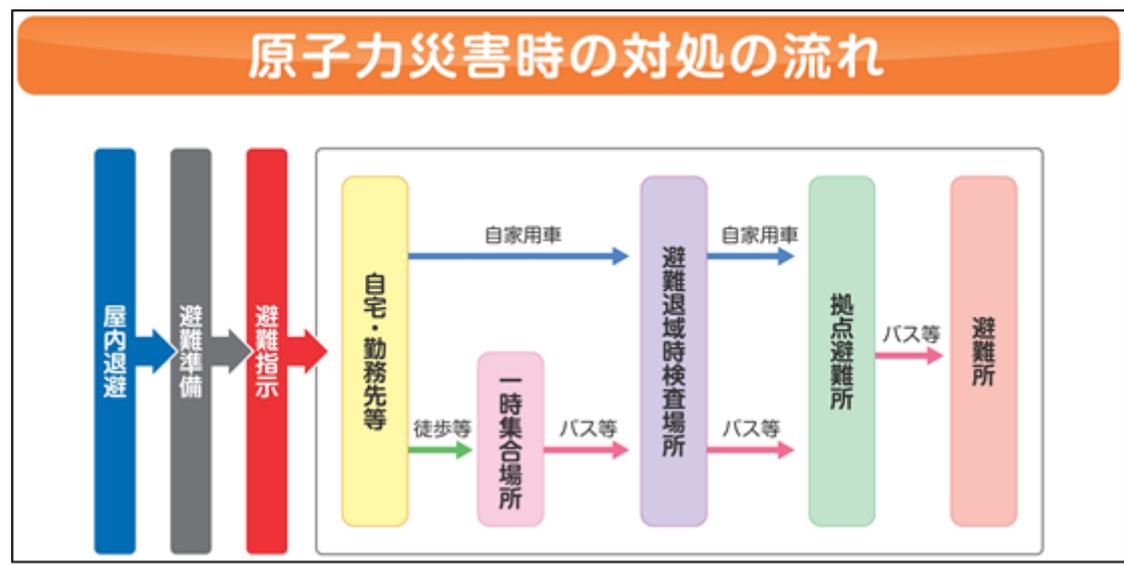
(3) 原子力災害時の対応で、「広域避難」について知っていますか。

知っている

知らなかった

【広域避難とは】

原子力災害により避難する際には、あらかじめ、地域防災計画や避難計画で避難経路や発電所から30km以遠の避難先を県内、県外でそれぞれ設定しています。



(4) 「広域避難」をするとき、お住まいの地域が県内、県外のどこに避難するか知っていますか。

知っている

知らなかった

【敦賀市からの広域避難先】

県内（福井県内）の避難先：福井市、小浜市

県外（奈良県内）の避難先：奈良市、大和郡山市、天理市、生駒市

6 その他、防災に関してご意見がありましたらご記入ください。

---

---

---

---

ご協力ありがとうございました。